

都市再生整備計画(第1回変更)

みかわちく
美川地区

(地方都市リノベーション事業)

いしかわけんはくさんし
石川県白山市

平成26年12月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	石川県	市町村名	白山市	地区名	美川地区(地方都市リノベーション事業)	面積	80.6 ha
計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

白山市の将来を担う子供たちが郷土の歴史・伝統・文化を愛し、人と人が集い賑わうまちづくり

目標1: 郷土の歴史・伝統・文化を学ぶことができる教育施設を充実させる。

目標2: 人と人がふれあい育む環境整備を図り、地区全域へにぎわい効果の波及を図る。

目標3: 地区内の人口減少・少子高齢化の抑制を図る。

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るためのリノベーション方針)

白山市は、県都金沢市の南西部に位置し、平成17年に1市2町5村の合併により誕生した、霊峰白山から日本海に至る石川県最大の面積755.17km²を誇る市である。また、北陸自動車道美川IC・白山IC・徳光スマートICや、国道8号・157号、JR北陸本線といった高速交通体系へのアクセスも容易で、交通利便性の高い環境にある。

市では、旧松任市・旧美川町・旧鶴来町の主要な駅周辺のまちなかを中心市街地として位置付け、古くから商業・居住・文化・行政等の都市機能が集中する拠点区域として、「既存ストックの有効活用とまちなか居住の推進」や「既存市街地が充実したコンパクトなまちづくりを推進している。一方、郊外部は、稲作を中心とした田園集落や工業団地、白山ろくの山林が広がり、中心市街地の居住エリアと郊外の産業・自然エリアが役割分担して都市が機能している。また、土地利用規制により郊外の無秩序な開発を抑制し、集約型都市構造の実現を目指している。

しかしながら、近年、旧美川町では、少子高齢化の進展、役場機能を担ってきた白山市美川支所(旧町役場)の地区外への集約移転などの影響により、地域の人口減少が進み、住民同士のつながりも希薄となり、古くから培われた、『おかえり祭り』に代表される伝統文化や『美川仏壇』等の地場産業がその担い手とともに失われつつある状況である。特に、他の中心市街地のある松任・鶴来の2地域に比べ人口減少とともに施設の老朽化も進んでいることから、都市としての求心力低下は顕著である。

こうした背景から、JR美川駅の北東部に広がる公共公益施設が集積する旧美川町の中心市街地を「中心拠点区域」と位置付け、地区内の未利用地である支所跡地を活用し、地域の情報発信・地域コミュニティの拠点施設として『美川図書館』を整備するほか、地域のニーズに合わせた地区公民館等公共施設の集約・拡充整備を行い、都市機能の拡散防止と中心市街地の公共・公益サービスの維持向上を図る。

また、関連事業による民間活力を活かした『みかわ認定こども園(幼稚園と保育所の一元化施設)』の整備により、多様化する子育てニーズへの対応が図られ、図書館整備との相乗効果による子育て世代の定住促進を図る。これらに併せ、『(都)美川大浜水源地区線』及び『(都)道専山美川駅線』の整備により、公共施設への回遊性・アクセス性を向上させ、子供から高齢者まで安全・安心に散策できる環境を整備することで、まちなかのにぎわい創出を図る。

公的不動産の活用方針については、『白山市都市計画マスタープラン』では、全市的にコンパクトな都市構造をめざすことで都市活動に必要な施設が凝縮された効率的なまちづくりを推進することとしており、中心市街地については、低未利用な公共用地を活用し、地域に必要な各種施設との合築や集約移転を進めるほか、民間活力も含め、商業施設の誘致や優良宅地の造成を行うことで中心市街地内での都市機能の更新と強化を図っている。旧鶴来町の中心市街地では、老朽化が進む鶴来公民館を鶴来支所(H28より市民サービスセンターへ移行)内に移転し、鶴来公民館跡地に3保育所を民営化・統廃合した施設整備を行い、集約型都市構造の実現を目指している。また、公益拠点施設の集約化とともに、統廃合により生じる郊外部の跡地利用については、必要最低限の行政サービス維持のための施設や地域のニーズを満たす機能を有する複合施設として活用し、都市機能の拡散防止に努める。

まちづくりの経緯及び現況

・本地区は、旧石川郡美川町の中心市街地であり、室町時代より北前船の寄港地として栄え、廃藩置県後の一時期には県庁が置かれるなど、「石川県」の名前の由来となった正に石川県のルーツとも言える重要な地域である。現在も地域の随所には往事のたたずまいが残り、『おかえり祭り』の台車(だいがるま)には美川仏壇や美川刺繍などの伝統工芸が施されるなど、継承すべき貴重な街並みや文化、伝統工芸などが多く存在している。

・これらの資源活用や中心市街地の賑わい創出を目指し、平成15年度より「まちづくり総合支援事業」を実施し、美川地域の主要拠点間のネットワーク整備や歴史的環境整備を市民との協働で進め、歴史・文化拠点整備及び休憩施設整備を計画的に行い、イベントや各拠点施設等の受け皿づくりを強化してきた。

・市としても、中心市街地の商店街空き店舗対策や賑わい創出への補助事業、子育て世代を対象とした定住化促進支援事業(最大50万円の助成)を実施するなど、各種事業により持続可能な活力あふれるまちづくりを推進している。

・また、市の教育方針として「子どもの読書活動の推進」を掲げ、図書館教育の充実を進めており、市内すべての小中学校に図書館司書を配置するとともに、公立図書館と学校図書館とを連携する図書館ネットワークを構築し、「調べ学習コンクール」や研究会・発表会などを実施することにより、子供の学習意欲・読書意欲の向上や郷土愛醸成を目指すなど、先駆的な取り組みを進めている。

・学校やスポーツ施設等の教育施設が集積し、古くからのまちなみや伝統文化などの魅力的な資源を存しているにもかかわらず、本地区は少子高齢化が進行しており、人口減少とともに住民同士のつながりも薄れ、貴重なまちの資源がその担い手とともに失われつつある状況である。

・さらに、市内の中心市街地として位置付けられている旧松任市・旧鶴来町・旧美川町の3地域において、旧美川町のみ図書館の整備が遅れており、加えて併設の美川公民館も狭小であることから、図書館ネットワークが効果的に機能しきれておらず、生涯学習活動にも支障を及ぼしている状況である。

課題

【行政サービス・地域コミュニティ】

・平成28年度には支所が廃止され、市民サービスセンターに移行されることから、行政サービスの低下による地域活力の衰退が懸念されている。

【教育・子育て】

・市民との交流・連携により教育を受ける環境整備が不十分であり、人と人とのつながりが希薄となってきていることから、受け皿となる公共施設の整備が望まれている。

・美川公民館併設の美川図書館は老朽化が進み狭小であるため、ふるさと学習の場や図書館ネットワークの役割を担う施設の拡充整備が望まれている。

・生活の多様化、特に共働きの増加により、多様な保育ニーズに対応したサービスを提供できる施設の整備が望まれている。

【文化】

・江戸時代から続くおかえり祭りの担い手や、美川仏壇や美川刺繍などの伝統工芸の後継者不足が課題となっている。

【人口】

・本地区では人口減少・少子高齢化が顕著に進行している。

(H7からH25にかけて、地区内人口は約718人の減(約15%減)、年少・生産年齢人口は約1,076人の減(約27%減)、高齢人口は約358人の増(約36%増)となっている。)

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>・『白山市総合計画「白山市みらい創造プラン」』及び『白山市都市計画マスタープラン』において、旧松任市・旧美川町・旧鶴来町の主要な駅周辺のまちなかを中心市街地として位置付けており、本地区はそのひとつとして、「既存ストックの有効活用とまちなか居住の推進」や「既存市街地が充実したコンパクトなまちづくりを進めることとしている。</p> <p>・具体的な施設整備については、『白山市総合計画「白山市みらい創造プラン」』では、「施設やサービスに地域格差があり、特に老朽化した施設の運営については今後検討を要する」としているほか、「関係機関との連携、協力を図り、読書環境の改善に努めるとともに、ボランティアの参加を得ながら、市民に親しまれ役立つ図書館として地域の活性化に寄与することが求められている」と明記している。また、『白山市都市計画マスタープラン』では、「老朽化が進む狭小な美川図書館は、地域の情報発信拠点として、新たに整備する」と明記している。</p>
--

リノベーション事業の計画

<p>都市機能配置の考え方</p> <p>・本市は1市2町5村の合併により誕生し、霊峰白山から日本海に至る755.17km2の県内最大の面積を有する市として、持続可能な行財政運営のため、『白山市行財政改革大綱』に基づき、支所を始めとする公共施設の統廃合による合理化を進めている。特に、郊外部の支所や小中学校等の統廃合を進めていく一方、市街地を中心に、保育所・幼稚園の民営化及び統廃合や、学校・公民館等の主要公共施設の再整備や耐震化を進めている。平成22年2月には民間有識者等で構成される行財政改革戦略会議の答申を受け、さらなる改革を進めているところであり、地元町内会や各種団体とは、白山市全域で計500回、旧美川町地域では計54回の協議が重ねられ、本地区においても、具体的な施設の廃止や管理者見直し等の方針が示されている。</p> <p>・古くから商業・居住・文化・行政等の都市機能が集積している駅周辺の中心市街地である本地区を、「中心拠点区域」として位置付け、公共交通の利便性や高いアクセス性を活かし、市の方針に基づき美川支所や美川図書館など公共施設等の既存ストックの有効活用と維持向上を進めながら、中心市街地の再構築とともに魅力と活力ある快適な都市空間の形成を図り、まちなか定住人口の増加に繋げる。</p> <p>・また、これまでの拠点整備・ネットワーク整備を活かして、JR美川駅や地区内の公共施設を繋げる道路ネットワークを再整備するとともに、教育・子育て施設の集約・移転・拡充整備とあわせて、地区住民や来訪者のアクセス性・回遊性の向上と賑わいの創出を図る。</p> <p>・さらに、公共交通の駅などを拠点として、コミュニティバスを運行することにより、郊外部において不足する医療機能や商業施設等の生活機能の確保、中心市街地の公共サービス機能との連携強化を図る。</p> <p>・郊外部においては、土地利用規制により無秩序な開発を規制することでスプロール化を抑制するとともに、必要最低限の行政サービス水準を保ちながら、その他公共施設を公共交通沿線に集約する。集約化に伴い未利用となった公的施設については、地域コミュニティ形成等の場としての利活用を進め、都市機能の拡散防止に努める。</p>

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な地方都市リノベーション推進施設及び生活拠点施設の考え方

<p>市では、合併後策定された『白山市行財政改革大綱』に基づき、郊外部である白山ろく地域の支所や小中学校等の統廃合を進めていく一方、市街地を中心に、保育所・幼稚園の民営化及び統廃合や、学校・公民館等の主要公共施設の再整備や耐震化を進めるなど、適正な施設配置と市街地の再整備に取り組んでいるところである。</p> <p>その施策のひとつとして、「総合支所方式」から「本庁方式」への移行に向けて、美川支所に隣接する『美川すこやかセンター』内に、支所を移転するとともに地区公民館を移転・併設し、老朽化と狭小ゆえに不足していた地域交流機能の拡充を図る。また、支所跡地には、同じく老朽化と狭小が問題となっていた『美川図書館』を移転新築し、『美川すこやかセンター』と接続させることで、地域の情報発信や住民の交流等、地域コミュニティの拠点施設としての役割を担う。</p> <p>特に、旧美川町の中心拠点である本地区の中でも交通利便性・アクセス性の高い支所跡地に『美川図書館』を移転新設することにより、図書館や隣接する公民館で開催される生涯学習活動に小中学生や子育て世代が参加することで、あらゆる世代との交流が促進され、地区内のにぎわい創出と活力の向上を図る。また、かねてより活動の場を求めていた地域ボランティア団体等の活動が促進され、古くからのまちなみの案内や安産川(やすまがわ)の貴重な生態系の維持活動など地域の歴史遺産や自然遺産の保護・保全活動を学び・啓発する場として図書館を利用することにより、図書館利用者が地域の歴史文化を再認識し、地元への愛着心や学習意欲の向上に繋がるものと期待される。</p> <p>これらの地域団体や小中学校との連携により、子どもたちが本地区の歴史・文化・伝統・産業を知る『生き字引』と直にふれ合い、学び、継承するという新たな地域の仕組みの構築を図り、郷土愛の醸成や地域の活力向上とともに、北前船の時代から培われてきた人と人の繋がりを取り戻し、白山市の将来を担う子どもたちがこの地区に根付き伝統文化が継承されることを目指している。</p> <p>また、本市は、図書館教育の充実を図るため、市内の全小中学校に図書館司書を配置し、公立図書館と学校図書館とを繋げた図書館ネットワークを構築して、市内全域で「調べ学習コンクール」の実施や地域情報の共有化などの取り組みを行っている。新たな図書館の整備により、図書館司書を通じて本市の図書館ネットワークがより効果的に機能することで、子どもたちが図書に接する機会が増え、読書意欲の向上が期待されるだけでなく、白山市全域の地域情報や子どもたちの学習成果等の情報も共有される。地域に根ざした親しみやすい図書館として利用者が増加し、さらに、地域団体等との活動を通じて体験・学習したふるさとの歴史・文化等を、子どもたちだけでなくあらゆる世代に発信・共有されることで、合併により失われつつある各地域のアイデンティティを甦らせ、地区内にとどまらず旧自治体の垣根を越えた地域交流・文化交流が活性化し、交流人口の拡大とともに白山市全域の地域活力向上・白山市の発展につながっていくものと考えている。</p>
--

都市再生整備計画の目標を達成するために必要な交付対象事業

<p>・(都)美川大浜水源地線、昭和通り線外1路線 …公共施設及びまちなかへのアクセス向上を目的として、あらゆる世代に優しい歩行者空間の整備を実施し、施設間連携の促進を図る。</p> <p>・(都)道専山美川駅線 …美川駅と公共施設を結ぶ地区内の主要な路線の歩道を整備することにより、移動の円滑化と回遊性を向上し、賑わいの創出を図る。</p>

目標を定量化する指標

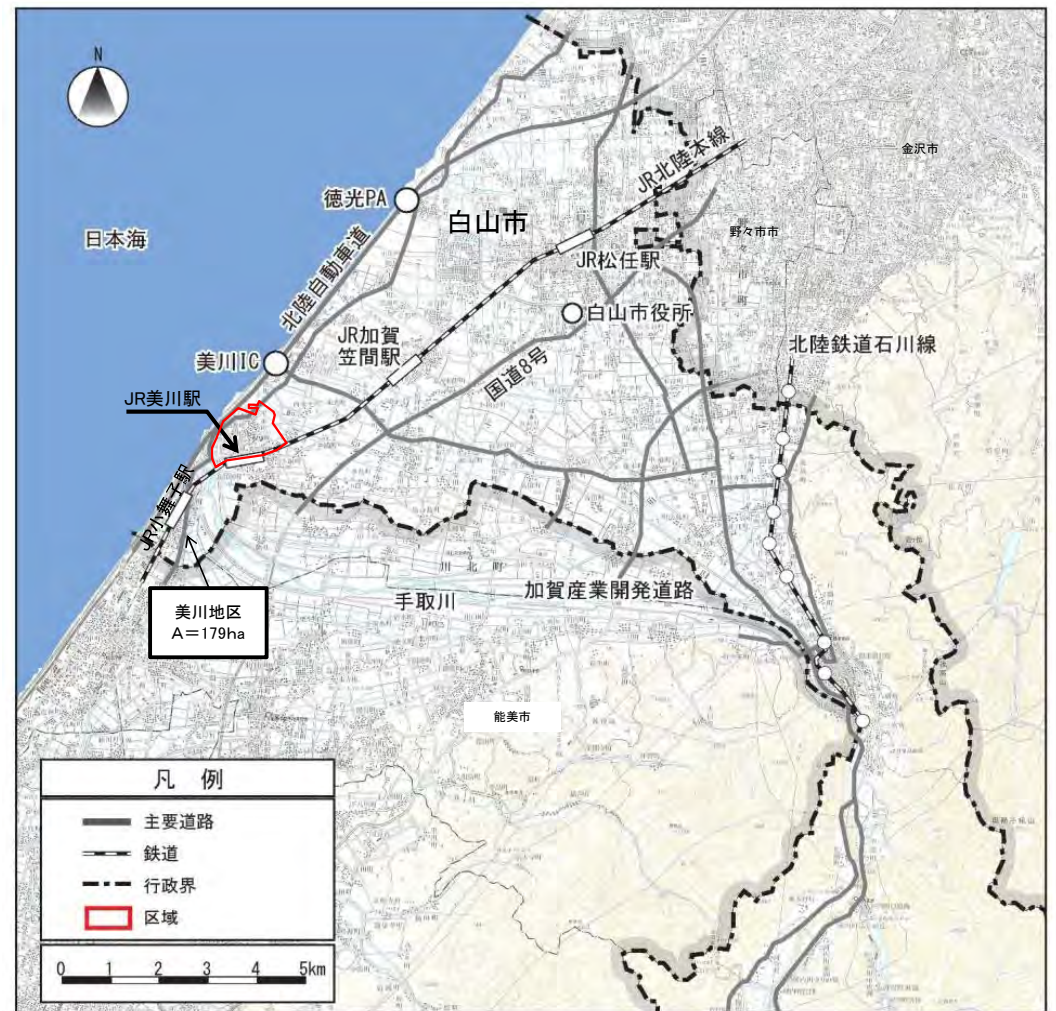
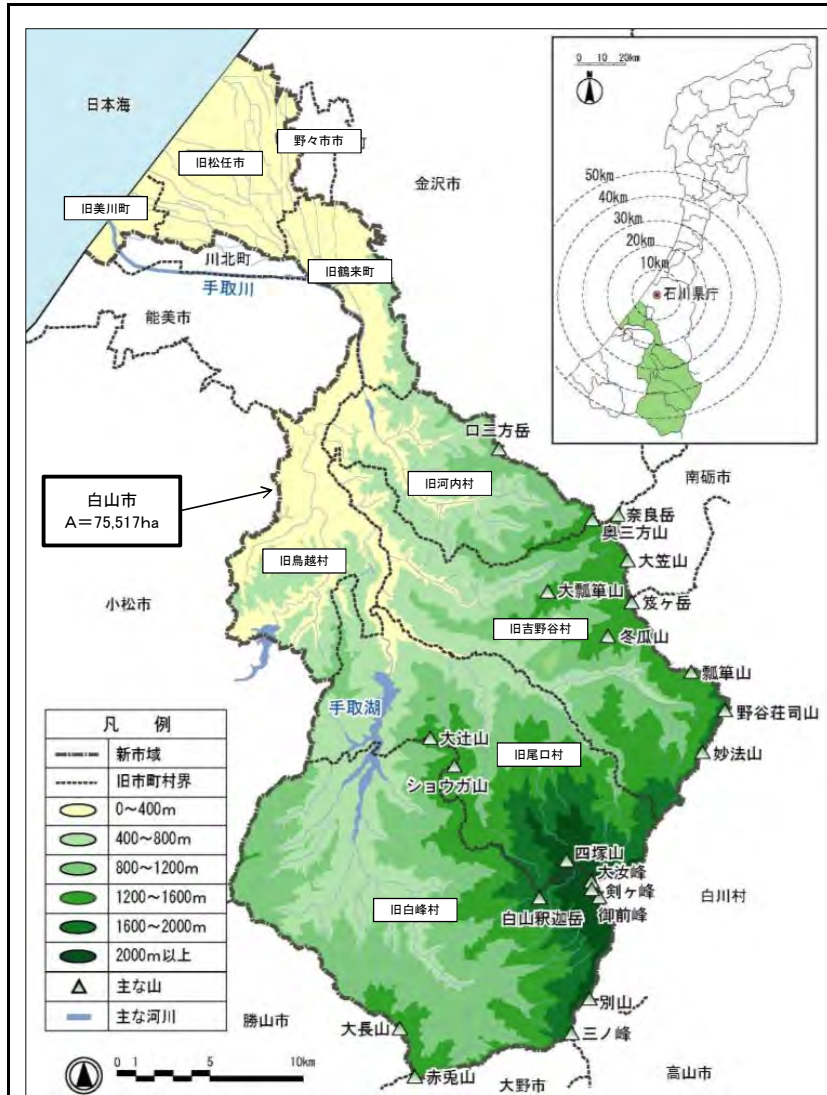
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
美川図書館利用者数	人／年	美川図書館の年間利用者数	図書館利用者の増進により、目標1の郷土への関心を深めることにつなげる。	32,400	H24	50,000	H27
ボランティア団体活動回数	回／年	美川おかえりの会及び美川自然人クラブの活動実績	ふるさとや環境学習の実地体験の場を子どもに提供することにより、目標2のにぎわい効果の波及につなげる。	12	H24	20	H27
白山市定住促進支援事業申請者数	人／年	若年層(45才未満)及び市外からの転入者数	地区内への定住促進対策を図ることにより、目標3の人口減少・少子高齢化の抑制につなげる。	0	H24	2	H27

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業	
<p>目標1: 郷土の歴史・伝統・文化を学ぶことができる教育施設を充実させる。 教育・文化施設整備による、ふるさと学習拠点施設の整備</p>	<p>地方都市リノベーション推進施設: 美川図書館 関連事業: 美川すこやかセンター改修事業 関連事業: 美川図書館、美川小・中学校図書購入事業</p>	
<p>目標2: 多くの人が出会いふれあい育む環境整備を図り、にぎわい効果の全市域への波及を図る。 地域コミュニティ活動の場の整備及び周辺ネットワークとなるアクセス道路の整備</p>	<p>地方都市リノベーション推進施設: 美川図書館 道路:(都)美川大浜水源地線 道路: 昭和通り線外1路線 高質空間形成施設:(都)道専山美川駅線 関連事業: 美川すこやかセンター改修事業</p>	
<p>目標3: 市外からの転入による定住人口増加を図る。 教育・文化施設を拠点として人と人のつながりを活性化させることで、子供を育てたいと思ってもらえるまちづくりの推進</p>	<p>地方都市リノベーション推進施設: 美川図書館 関連事業: みかわ認定こども園新設事業 関連事業: 白山市定住促進奨励金制度</p>	
事業実施における特記事項		
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>・観光ボランティアガイド「美川おかえりの会(現在ガイド数25名)」は、平成12年に発足し、以降、美川を訪れるお客様に、精力的に美川地区の歴史や伝統文化を発信し、市内外から好評を博している。地元の特徴ある食文化(発酵食品文化)に触れ合える日帰り旅企画は非常に評判がよく、地区内で食事したり地産品がお土産として求められたり、経済波及効果が現れている。地区内各界からの開催要請により、ボランティアガイドと市民との勉強会や子ども達を対象としたふるさと学習に既存の公共施設が活用されており、図書館や公民館等を整備することにより、今まで以上に子ども達を対象としたふるさと学習の場として活用することを予定している。</p> <p>・平成20年、当地区の清流・湧水のシンボルであるトミヨ(石川県の絶滅危惧種である淡水魚の一種)の保護活動を通して、自然と生態系を保全する目的で、「美川自然人クラブ(現在会員数17名)」が発足し、多岐にわたる活動に精力的に取り組んでいる。トミヨの生息地である安産川(やすまるがわ)や渡り鳥コアシサン(環境省の絶滅危惧Ⅱ種)の営巣地である河原の草刈り、ごみ拾い作業に親子で汗を流したり、親子自然観察会を通して、希少動植物の生息調査や生態系の保全方法を体験学習したり、一過性ではない子ども達の世代にも継承される活動を目指している。観光ボランティアガイドの活動と同様、本事業による施設整備により、今まで以上に子ども達を対象としたふるさと学習の場として活用することを予定している。</p>		
		

都市再生整備計画の区域

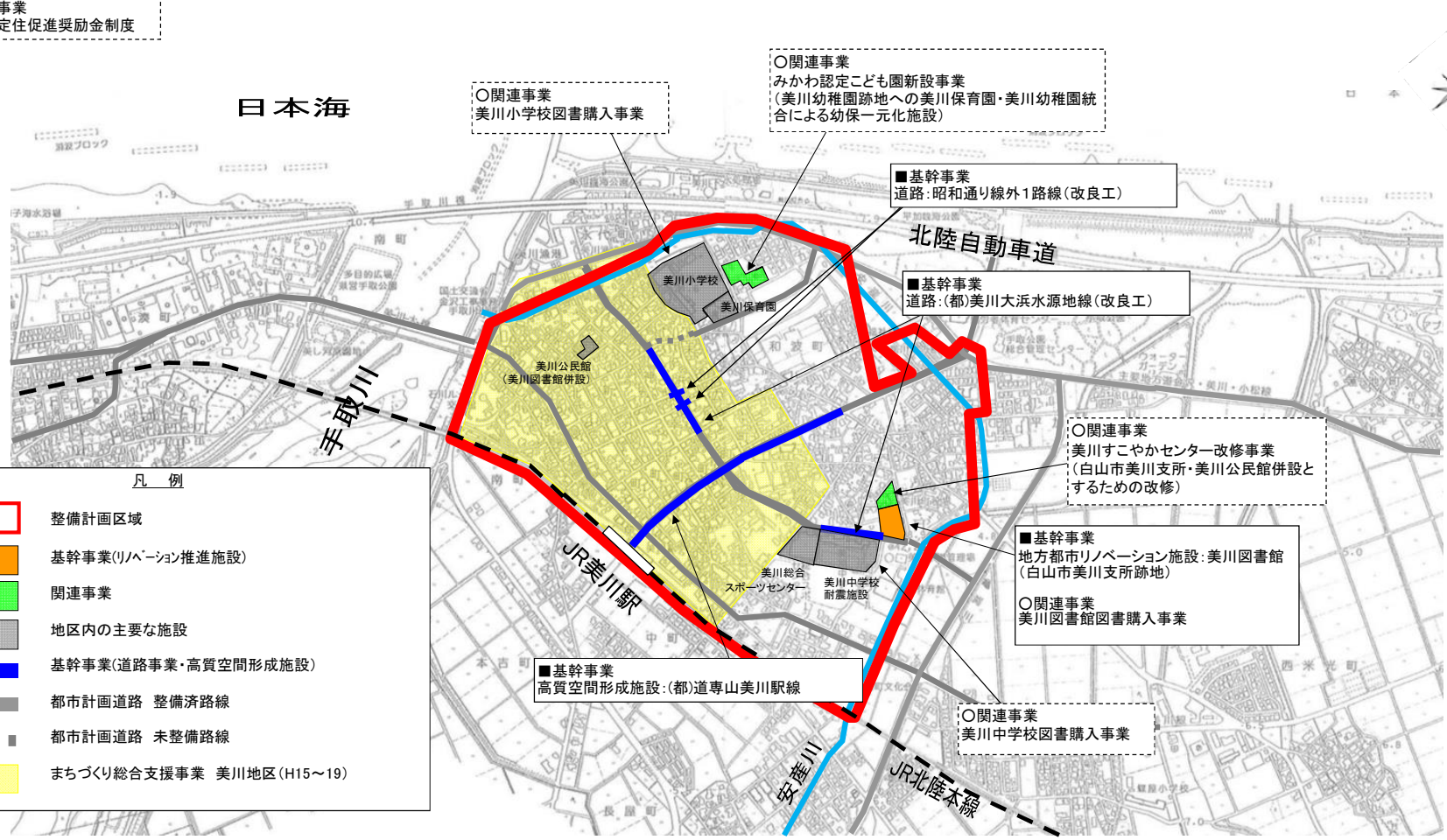
<p>美川地区(石川県白山市)</p>	<p>面積 80.6 ha</p>	<p>区域 平加町の一部、美川和波町、美川末広町、美川浜町、美川神幸町、美川今町、美川新町、美川今町、美川永代町の一部、美川南町の一部、美川中町の一部、長屋町の一部、</p>
---------------------	-------------------	---



美川地区(石川県白山市) 整備方針概要図

目標	白山市の将来を担う子供たちが郷土の歴史・伝統・文化を愛し、人と人が集い賑わうまちづくり 目標1: 郷土の歴史・伝統・文化を学ぶことができる教育施設を充実させる。 目標2: 人と人がふれあい育む環境整備を図り、地区全域へにぎわい効果の波及を図る。 目標3: 地区内の人口減少・少子高齢化の抑制を図る。	代表的な指標	美川図書館利用者数	人/年	32,400	(H24年度)	→	50,000	(H27年度)
			ボランティア団体活動回数	回/年	12	(H24年度)	→	20	(H27年度)
			白山市定住促進支援事業申請者数	人/年	0	(H24年度)	→	2	(H27年度)

○関連事業
白山市定住促進奨励金制度



凡例

- 整備計画区域
- 基幹事業(リノベーション推進施設)
- 関連事業
- 地区内の主要な施設
- 基幹事業(道路事業・高質空間形成施設)
- 都市計画道路 整備済路線
- 都市計画道路 未整備路線
- まちづくり総合支援事業 美川地区(H15~19)

